

平成27年9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

## 日向和田地区の青梅街道の変遷

青梅駅前から青梅街道を西に向かうと、森下と裏宿の境で一度曲り、その後また直線で西に向かいます。青梅一中の先から上り坂になり、上りきった所から下った場所が「楯の坂上」です。道はまた上り坂になり宮ノ平駅方面に向かいます。「楯の坂上」は、東西どちらから見ても「坂下」ですが、なぜ「坂上」の地名が付いているのでしょうか。

青梅街道の旧青梅町内の住江町交番から森下陣屋跡までの間は、江戸開府の頃に青梅の市場集落形成と合わせて開かれたものです。それまでの青梅街道は、住江町交番の所から宗建寺の東側の別当沢右岸を下り、田端橋から西に転じて千ヶ瀬、滝ノ上、大柳、天ヶ瀬を経て、青梅一中の裏の坂を上って楯の坂上に出ていました。ここから、西へはまた多摩川岸までの下り道となります。たしかに、昔の青梅街道では東西のどちらから来ても、「楯の坂上」は坂上だったことが分かります。

ここから先の和田橋入口の交差点に至るまでの日向和田地区の旧青梅街道は、時代とともに変遷し3本のルートがあります。最も古い旧道は、現在裏宿の山車倉庫のあるあたりから沢へ下り、橋を渡って楯の沢右岸を楯ノ坂と呼ばれた坂道で多摩川岸まで下っています。ここから西へ進み、崩橋(今は神明小橋)を渡って臨泉庭園の北側を通り、川沿いを西に進んで和田橋入口の交差点の手前で上に上がって新しい旧道に合流します。この道は車は通れません。臨泉庭園の西側から先の多摩川の崖上を通る区間は、現在は細い山道になっています。

明治36(1903)年に、一段上に新道ができ、交通路としての利用は新道が使われるようになります。この道は楯の坂上から長坂を下り、神明橋を渡って和田橋入口の交差点で現青梅街道とつながる道で、古い旧道よりは坂の勾配も緩く、現在も車道として使われています。和田橋入口の交差点を横切って山際を日向和田駅前へとつながっています。

明治28(1895)年に日向和田駅(現在の日向和田保育園の位置)まで延長された青梅鉄道は、

大正3(1914)年に宮ノ平トンネルが開通し、日向和田駅は現在の位置に移りました。鉄道沿いの道が必要になり、裏宿から宮ノ平への道、さらに和田乃神社、明白院の裏の山裾を  
通って、和田橋入口の交差点の所で旧青梅街道と合流する道ができました。

ここまでの青梅街道は、宮ノ平駅のすぐ西側にある<sup>みやつ</sup>三谷沢が交通の難所で、ここを避けるために多摩川近くまで下ったり、山裾を迂回していました。この三谷沢に暗渠ができて、昭和8(1933)年、和田乃神社や明白院の前を通る現在の青梅街道ができました。それまでの日向和田地区では、旧道が青梅と奥多摩をつなぐ主要な交通路でした。

下図は「青梅市史」に掲載された図を転載したものです。

(文責 久保田繁男)

